



神奈川県が、全国で初めて実施

かながわオーラルフレイル 健康相談

オーラルフレイルとは、「口の機能の健康な状態」と「口の機能が低下している状態」の間にある、「嚙む」「飲み込む」「話す」といった口のまわりの軽微な衰えが積み重なった状態です。高齢になればなるほどリスクは高まり、早いうちに対処すれば健康な状態へと改善することが可能とされています。

神奈川県では、お口の未病改善の取組へ神奈川県歯科医師会と連携し、歯科医療機関でオーラルフレイルについて相談できる「かながわオーラルフレイル健康相談」を11月から開始しました。

「かながわオーラルフレイル健康相談」で口の機能改善へ

オーラルフレイルのチェックを行い、個人の状況にあわせたオーラルフレイル改善プログラムを無料で指導を行います。訓練が必要と認めた方に、オーラルフレイル改善プログラム（お口の健口体操、口を開ける訓練、舌で物を押しつぶす訓練、発音の訓練等）を指導し、1か月間自宅で取り組んでもらいます。

*平成30年度の県事業で、オーラルフレイルの方にオーラルフレイル改善プログラムを実施した結果、約56%の方に改善が認められています。

現在、県内20の歯科医療機関で実施されていて、順次拡大予定です。

磯子区では、川田歯科医院 磯子区丸山2-3-15 Tel.045-751-2595

ご自身でできる オーラルフレイル チェック



以下5つの項目で、2つ以上あれば該当しますので、「かながわオーラルフレイル健康相談」で相談してください。

- ① ご自身の歯が19本以内（入歯などを除く）
- ② 硬いものが食べにくくなった
- ③ お茶や汁物でむせることがある
- ④ 口の乾きが気になる
- ⑤ 会話で、言葉がはっきり発音出来ないことがある

2011年3月に議員提案により制定された「神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進条例」は、歯及び口腔の健康づくりが生活習慣病の予防など健康の保持増進を図ることを目的としたものでした。

その後、未病の改善やオーラルフレイルなど歯科保健医療の新たな動きを踏まえ、2017年第3回定例会で、私はオーラルフレイル対策の重要性を指摘しました。

知事より、新しい概念で条例上どのように定義すべきかなど課題はあるものの、全国初の取り組みであり、オーラルフレイル対策をさらに推進していくためにも条例の規定には前向きに検討すると答弁をえました。

2018年の条例改定時にはオーラルフレイルの概念が定まっていなかった中、全国で初めての基本的施策としてオーラルフレイルの推進が位置付けられました。

オーラルフレイル有症者とそうでない人と比べ、要介護新規認定は40%増加、死亡は44%増加するという結果が示されています。オーラルフレイルの改善は重要ですが、調査によるとオーラルフレイルを知っている人は約43%と認知度は高いとは言えません。

私は、引き続きオーラルフレイルの普及啓発に取り組み、未病の改善を進めてまいります。



あらい絹世の 歩いて 見る！ 磯子のまち あれ？ これ？

氷取沢町

(〒235-0043)

人口：2,874人 世帯数：1,459世帯 （令和7年9月現在）

氷取沢町は、新編武蔵風土記稿の記述に昔から山麓に沿って長い沢があったので「長澤村」と呼ばれていたとあります。鎌倉幕府の第14代執権(将軍に次ぐ要職)の北条高時がこの村を訪れた際に高倉明神社(峰白山神社付近)の深山から氷を取り出して献上したところ、褒め称えられて、長澤村を「氷取沢村」に改名されたと言う説や、かつてこの地域で金くそ(鉄くず)が採れたことで農機具や刀類を作る鍛冶人が居たことで、火を示す漢字を用いて「火取沢」と呼ばれたこともあります。歴史書「吾妻鏡」の1213(建保元)年9月22日の条に源実朝(頼朝の次男)が「火取沢」を訪れたと表記されているのが最古とされていますが戦の際に、敵方に地名で武具を作る場所が特定されて其処を攻め入られることを避けるため「氷取沢」とした説があるということです。また、新編武蔵風土記稿には「火の字今用いるところとは異なれど、全くこの地のことにして、「昔時火取澤とも記し、且火氷音訓の響似たらば、互いに用ひしこともしらる」と記されています。

1889(明治22)年4月1日、久良岐郡の一部であった氷取沢村が笹下・日野・矢部野・田中・栗木・上中里・峰の7村と合併して日下村大字氷取沢となり、1899(明治32)年4月1日横浜市に編入し磯子区が誕生、横浜市磯子区氷取沢町となりました。江戸期に荒神社と称した氷取沢村の鎮守社があり、明治維新後村社に列格。1912(明治45)年に栗木神社に合祀され、1947(昭和22)年に当地に遷座されました。境内には「氷取沢市民の森」を源流とする大岡川が流れています。地元の年輩の方は、神社を境に上流を「かみ」下流を「しも」と呼んでいたそうです。

2020年に旧県立氷取沢高校と旧県立磯子高校が統合して県立横浜氷取沢高校となりました。俳優の向井理さん、お笑い芸人の森下直人さん、Jリーガーの鈴木雄斗さん(湘南ベルマーレ)、セパタクロー日本代表の飯田義隆さん、山田昌寛さんが旧県立氷取沢高校の卒業生です。

「神奈川県庁舎 各階」 教育局 生涯学習部文化遺産課

文化遺産課は、文化財保護に関する調査・企画や、有形文化財・史跡・名勝・民俗文化財・天然記念物などの指定・保存管理、文化財保護審議会の運営、銃砲刀剣類の登録事務を行っています。

磯子区内の県指定文化財は、杉田にある東漸寺の釈迦堂、五輪塔と木造薬師如来坐像、根岸八幡神社の天然記念物の社叢林や森浅間神社周辺の樹叢などがあります。県教育委員会では、県内の文化財の保存と活用の基本的な方向性を示すため、文化財保護法に基づき「文化財を守り・伝え・活かす」ことを理念とした「神奈川県文化財保存活用大綱」を策定しています。



東漸寺の釈迦堂 写真:東漸寺

その重点的推進テーマは、地域に根ざした祭礼や芸能を継承し学習や観光にも活かしていく「民俗芸能の保存・活用」「近代の文化財の保存・活用」として、近代の建造物や産業・港湾など神奈川県らしい近代史を物語る文化財を計画的に守り公開や利活用を進めること、さらに発掘調査や記録保存を通じて遺跡等を適切に保護しその成果を展示や教育に活かして県民と共有していく「埋蔵文化財の保存・活用」の3つを掲げています。関東大震災では、鎌倉の社寺や県内の歴史的建造物等が多大な被害を受けたことや南海トラフ地震発生時の被害が想定されることから、大綱には「文化財防災マップの作成」「文化財防災マニュアルの整備」など現在行なっている取組や、「天然記念物管理マニュアル(樹木・樹叢)の整備」「文化財レスキュー活動の実施」など今後の取組なども記載されています。

横浜市南区中村町には当課が所管する「埋蔵文化財センター」があり、神奈川県内で発掘した出土品などを適切に保存・管理し、これらを公開する事で地域の歴史や文化の成り立ちを県民の方々に伝える様々な事業を行なっています。子ども向け体験教室として、夏休みにまが玉づくりや土偶づくりを体験できるイベントやかながわの遺跡展では、県内の発掘調査によって出土した資料を中心に、テーマに沿った企画展示を県内の複数の施設を巡回し展示しています。

昭和43年 横浜市磯子区生まれ。 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業。

日商岩井株式会社に8年、株式会社メタルワンに5年勤務。

平成23年 神奈川県議会議員選挙 初当選 以後連続4期トップ当選。

県民スポーツ常任委員会・厚生常任委員会・予算委員会など各委員長を歴任。

現在 厚生常任委員会、安全安心・未来環境特別委員会、予算委員会各委員、かながわ自民党副幹事長。

